

# 生活単元学習指導案

あさひ子学級1組 5名 指導者 大河原 徹也

本授業は、以下の検証を行うものである。

- 子どもが主体的に活動することができる内容であったか。
- 子どもが「できた自分」を実感することができる内容であったか。

## 1 小単元 遠くの町に行こう

### 2 目 標

友達と一緒に、校区から遠く離れた施設に行くことを楽しみに事前の準備学習をしたり、当日は、動物とのふれあいや公共の交通機関に乗ることを楽しんだりすることで、娯楽や余暇の過ごし方の可能性に広がりをもたせ、これまで学習したことを生かし、新たな活動を行うことのよさに気付くことができる。

### 3 小単元の評価規準

- あさひ子学級3学級合同で動物園に行くことを楽しみに事前の準備学習をしたり、当日は、動物園での活動を楽しんだりしようとするができる。【関心・意欲・態度】
- 楽しい校外学習になるように、交通機関の乗り継ぎの仕方や動物園での過ごし方を考えることができる。【思考・判断・表現】
- 交通機関を利用して移動したり、写真や絵、言語で活動を振り返ったりすることができる。【技能】
- 交通機関の乗り方を知り、外で活動する楽しさに気付くことができる。【知識・理解】

### 4 小単元について

#### (1) 小単元の価値

これまで、子どもたちは地域において多くのことを学んできている。例えば、「科学館に行こう」や「仲よし作品展を見に行こう」ではバスを使って市立科学館や作品展の見学に出かけ、公共の交通機関の利用の仕方が分かっただけでなく、施設内の様々な展示品の魅力にふれることができている。その学習から、子どもたちは「もっと自分たちの活動範囲を広げたい」という思いや願いが表れている。また、「校区探検に出かけよう」では学校山へと出かけ、住宅街に位置しながら未だ多くの自然を保有する田上小学校校区の素晴らしさを感じることができた。このようなことから子どもたちは、「もっと遠くへ行ってみたい」と学校外での学習のよさを感じ始めている。

一方、本学級の子どもたちは、その障害の特性ゆえに、ある一つの活動や行為にこだわりがあり、他の対象とのふれあいに広がりをもちにくい面もある。

しかし、先述したように、子どもたちはこれまでの学習経験を通して、今まで行ったことのない場所に行き、体験したことのない活動をしたという意欲をもち始めている。

そこで本単元では、これまで身に付けたバスの乗降の仕方や料金の支払い方等を更に発展させ、あまり使ったことがない電車に乗り、より遠い場所に移動する活動を設定する。活動場所は最近リニューアルが進んで話題になっている平川動物公園を設定し、動物園での活動を楽しむとともに、未体験のことを体験する楽しさや活動の場が広がることのよさを感じることができるようになりたい。また、事前におやつを購入したり、動物園において昼食を自分で選び購入したりする買い物学習や、移動の際の安全のきまりや公共の施設を使うときのマナーを考える活動などを設定することにより、他の単元で身に付けた力を繰り返し生かすことができるようにしたい。

このような活動を通して、子どもたちは教科等で学習した力を発揮したり、新たな課題を発見したりして、さらに学習を深めることができるものと考えている。また、地図の確認と実際に現地へ赴く活動を通して、日常生活で培った既存の知識や時間の感覚を修正し、余暇の過ごし方の可能性に広がりをもち、そのことが生きて働く力の育成につながっていくものと考えている。

(2) 子どもの実態と指導

	児童A (3年)	児童B (4年)	児童C (4年)	児童D (4年)	児童E (5年)
動物への興味・関心	教室で飼育している生き物に自分からえさを与えようとすることができる。	自分から飼育活動に関わることはないが、ウサギなど小動物を触ることができる。	自分から飼育活動に関わることはないが、動物図鑑を見ることを楽しむことができる。	自分から飼育活動に関わることはない。動物が映ったVTRを見ることことができる。	教室で飼育している生き物に自分からえさを与えようとするところがある。
校外学習への興味・関心	校内、校外の区別がつきにくいことがあるが、校外学習を楽しむことができる。公共の交通機関を利用して移動する経験があまりない。	校内、校外の違いが分かり外へ出ることを楽しむことができる。車の移動の際は道順を覚え、地図上でコースをたどることができる。	校内、校外の区別がつきにくいことがあるが、校外学習を楽しむことができる。公共の交通機関を利用して移動する経験があまりない。	校内、校外の区別がつきにくいことがあり、校外学習を行った経験があまりない。公共の交通機関を利用して移動する経験もあまりない。	校内、校外の違いが分かり、公共の交通機関を利用して移動することを楽しむことができる。時々、交通機関を利用している。
分かりの特性	聴覚情報が優位にはたらく。行動を促す際は身振りや写真を提示することで分かることが多い。	視覚情報が優位にはたらく。視覚情報が優位にはたらく。聴覚情報に比べて、聴覚情報についてはシングルフォーカス的な面がみられる。	視覚情報が優位にはたらく。聴覚情報と合わせることで確実に伝わるが多い。	視覚情報が優位にはたらく。周りの情報に影響を受けやすい。	視覚情報が優位にはたらく。名称を字に表すと確実に記憶する。

本単元では、こうした子どもたちの実態を踏まえ、動物園へ行く計画や準備を通し、主体的に活動を行うための学習を展開する。具体的には、これまでの学習や日常生活で学んだことを活用して公共の交通機関の利用方を身に付けたり、施設を利用する際のきまりを確認したり、買い物学習などの準備をしたりする活動を展開する。動物園では、自分のことは自分でできるように事前の学習を想起させ、見学後は自分でできたことを写真やVTRを使って振り返る活動を行い、できたことを大いに称賛し、日常生活で活用することができるように意欲を喚起する。

5 指導計画 (総時数14時間)

過程	主な学習活動	評価基準					時間
		A 児	B 児	C 児	D 児	E 児	
導入	1 バスと電車を乗り継いで、動物園に出かけることを知る。(本時)  学習の見通しをもち、活動への意欲を喚起するために、バスや電車に乗るシミュレーションを行う。	関：動物園のVTRを見ようとするところができる。 思：バスから電車に乗り換えることを発表することができる。	関：動物園のVTRを見ようとするところができる。 思：行く場所や乗り換える場所と使う交通機関が分かる。	関：動物園のVTRを見て動物の名前を言うところができる。 思：バスと電車の乗り方の違いに気付くところができる。	関：学習に参加することができる。 思：動物園へ行くことに気付くところができる。	関：動物園のVTRをて、自分なりの思いをつぶやくところができる。 思：バスと電車の乗り方の違いに気付くところができる。	1
	学習の見通しをもち、意欲的に活動することができたか。						
展開	2 動物園でやりたいことを教師に伝えたり、練習したりする。 ○ 見たい動物を発表する。 ○ 動物園の施設を調べる。 ○ 昼食やお土産を買う練習をする。 ○ 持って行くおやつを購入する。 3 公共の交通機関を使って動物園に行き、見学や買い物をする。  新たな課題意識をもたせ、活動への意欲を持続させるために、活動計画表を意識させる。	関：呼び掛けで活動に参加することができる。 思：必要な交通手段を選択することができる。 技：バス停から駅に移動することができる。 知：公共の交通手段や施設の使い方が分かる。	関：次の活動名を言うところができる。 思：必要な交通手段を選択することができる。 技：教師が切符を買う姿を見て、自分で切符を買うところができる。 知：公共の交通手段の使い方が分かる。	関：次の活動名を言うところができる。 思：必要な交通手段を選択することができる。 技：教師と一緒に切符を買うところができる。 知：公共の交通手段の使い方が分かる。	関：活動に参加し、動物園へ行くところができる。 技：バスや電車に乗ることができる。	関：自ら次の活動名に移ることができる。 思：必要な交通手段を選択することができる。 技：教師が切符を買う姿を見て、自分で切符を買うところができる。 知：公共の交通手段や施設の使い方が分かる。	11
	動物園へ行くために必要な行動に意欲的に取り組むことができたか。						
終末	4 動物園に出かけたときのことを振り返る。  これまでの学習の様子の写真を時系列に提示し、選択して表現できるようにする。	技：楽しかった活動を絵で描き、発表することができる。	技：楽しかった活動の写真を選んで絵で描くところができる。	技：楽しかった活動の写真を選んで取ることができる。	関：友達の発表を聞くところができる。	技：楽しかった活動の写真を選んで絵で描くところができる。	2
楽しかった活動を選択し、その活動名を言ったり絵に描いたり行動で示したりすることができたか。							

## 6 本 時 ( 1 / 1 4 )

### (1) 目 標

動物園での活動を楽しみにするとともに、動物園の場所を確認し、公共の交通機関を利用して移動する見通しをもつことができる。

### (2) 評価規準

A 児	B 児	C 児	D 児	E 児
バスから電車に乗り換えることを発表することができる。 【思考・判断・表現】	行く場所や乗り換える場所と使う交通機関が分かる。 【思考・判断・表現】	バスと電車の乗り方の違いに気付くことができる。 【思考・判断・表現】	学習に参加することができる。 【関心・意欲・態度】	バスと電車の乗り方の違いに気付くことができる。 【思考・判断・表現】

### (3) 指導に当たって

授業全体を通して、動物園に行く活動が子どもたちにとって魅力的な楽しい学習であり、また、これまでの学習を生かしながら学習を進めることで、実際に動物園に行けることを確認したい。そのために子どもたちがこれまでの学習と新たな学習を関連付けることができるようにすることにより、その他の学習内容にも意欲をもって活動でき、学習したことが役に立つ実感をもつことができるようにしたい。

### (4) 本時の展開

[ ] 子どもの意識

 教師の手立て

※ 評価

時	主な学習活動と教師の手立て・評価	
10	1 動物園のVTRを視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・あっ、キリンがいるぞ。</li> <li>・足湯が気持ちよさそうだ。</li> <li>・ここはどこだろう。</li> <li>・行ってみたいな。</li> </ul>	<p>動物園に出かけたいという気持ちを喚起することができるようにVTRを視聴する活動を設定する。</p> <p>簡略地図で動物園のおおよその場所を確認する。</p>
	2 本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     どうぶつえんにいくためのれんしゅうをしよう。                 </div>	<p>地図上のルートを乗り換え地点から色分けし、写真を使い、ルート上をバスと電車が通ることを見せることで、鹿児島中央駅でバスから電車に乗り換えなければならないことを押さえる。さらに、五位野駅から再びバスに乗り換えて動物園まで行くことを知らせる。</p>
30	3 動物園に行くまでの計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・始めはバスに乗るんだな。</li> <li>・電車にも乗るのか。</li> <li>・昼食はレストランで食べるんだね。</li> <li>・うまく行けるかな。</li> </ul>	<p>A児、C児、D児、E児は友愛バスを使い、B児はICバスを使い、バスに乗る活動を行うことで、これまでの学習を振り返ることができるようにする。</p>
	4 交通機関に乗る練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの乗り方は分かるよ。</li> <li>・鹿児島中央駅で降りるよ。</li> <li>・今度は電車に乗るんだ。</li> <li>・電車にはどうやって乗るのかな。</li> <li>・乗る前に切符を買うのだな。</li> </ul>	<p>VTRを視聴することで、バスと違い電車では、乗る前に券売機で切符を購入することに気付くことができるようにする。</p> <p>※ 切符を買うことができる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 達成できた子どもには「次はどこで降りるのかな。」と聞き、次の活動の見通しをもたせる。</li> <li>○ 達成できなかった子どもには券売機の写真を見せ、ボタンを押すことができるよう助言する。</li> </ul> </div>
5	5 本時の学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスや電車の乗り方は大丈夫だ。</li> <li>・乗り換えもできそうだ。</li> <li>・早く行きたいな。</li> </ul> </div>	<p>乗り換えるバス停、及び降車する駅名を確認し、カレンダーで動物園に行く日を確認することで今後の学習への意欲をもたせる。</p>